

第1回堺市美原区政策会議

日時 令和8年7月28日（火）午後7時00分～8時50分

場所 美原区役所 5階 大会議室

出席者：

【構成員】 阿部構成員、磯部構成員、氏林構成員、高岡構成員、高城構成員、田中副座長、辻本構成員、豊岡構成員、鳥井構成員、西村構成員、伯井構成員、堀内座長、松本構成員、大和構成員、湯井構成員

【事務局】 小川区長、澤副区長、北口課長、荻野課長補佐、寺川企画係長、平野、松田

【美原区役所関係職員】 西本保健福祉総合センター所長、久保自治推進課長、岡久子育て支援課長、神山同課長補佐、坪井保健福祉総合センター主幹

会議：公開会議

傍聴：傍聴者数1人

1 開会

2 会議報告

「事務局から配布資料の確認、会議の公開についての説明、傍聴人数の報告」

3 区長あいさつ

○小川区長 皆様、こんばんは。美原区長の小川でございます。

構成員の皆様方におかれましては、大変お忙しい中、堺市美原区政策会議にご出席をいただきまして誠にありがとうございます。皆様には、日頃から堺市政及び美原区政全般にわたりまして、格別のご支援、ご協力を賜り、心よりお礼申し上げます。

さて、この堺市美原区政策会議は、区の実情や特性に応じた政策形成を進め、特色ある行政の実現を図るため、区民参加と区長の政策立案を支える行政運営上の懇話会として開催しております。

そして昨年度末、皆様からいただきました貴重なご意見を基に、堺市美原区基本計画、美原区ビジョン2030を策定いたしまして、今年度はその計画期間の初年度となります。本日はそのビジョンに新たに加えました子育て分野につきまして、皆様から広く意見を頂戴し、施策を進める上で参考とさせていただきたいと思っております。構成員の皆様には、それぞれのお立場から積極的にご意見をいただきまして、ご助言をいただきますようお願い申し上げます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

4 事務局からの報告事項

○松田企画総務課 まず初めに、事務局からの報告について、説明させていただきます。

まず1つ目ですが、5月に郵便で皆様へ送付させていただきました「みはらグルメマップ」のアンケートについて、ご協力いただきありがとうございました。区役所内で選考した結果、マップの名称は「みはらグルメさんぽ」に決定いたしましたのでご報告いたします。

現在、皆様から推薦いただきました飲食店や区役所職員が推薦した飲食店へ、掲載依頼に伺っておりま

す。マップは区ホームページなどのオンライン上で、秋頃の公開を予定しております。完成しましたら、改めて共有させていただきます。

また、美原区まち歩きマップにつきまして、完成いたしましたので、本日お配りしております。ぜひご覧いただければと思います。

2つ目です。皆様にお配りしました「南大阪わくわく夏たびデジタルスタンプラリー」のチラシをご覧ください。松原市観光協会主催の南大阪の10市町村を巡るデジタルスタンプラリーが9月27日、日曜日まで開催されています。美原区は、堺市総合防災センターがスポットとなっております。ご興味のある方は、ぜひご参加ください。

3つ目です。かんさい情報ネットe n. の企画「アナタの味方！お役に立ちます！」で、美原西小学校の取組が放送されます。美原西小学校の困り事の解決に向けて、地域の皆さん、農芸高校の生徒さん、PTAの方々など多くの方にご協力いただきました。番組は約20分で、放送日は8月6日木曜日18時20分から19時の間です。ぜひご覧ください。

4つ目です。皆様にお配りしました、オレンジ色のチラシ、令和8年度歯科保健講演会、口腔医療への取組について、美原保健福祉総合センター所長の西本よりご説明させていただきます。

- 西本美原保健福祉総合センター所長 毎年、狭山美原歯科医師会と堺市、狭山市で共催しています。歯科講演会を今年は美原区で開催いたします。日にちは10月22日、この会場で行います。歯の健康は全身の健康に密接に関連しています。どうぞ皆様、ご参加くださいますよう、よろしくお願いいたします。
- 松田企画総務課 ありがとうございます。事務局からの報告は以上です。

5 構成員からの報告事項

- 松田企画総務課 続きまして、構成員の活動報告です。まず初めに、7月18日に開催されました「ルクプチ夏祭り」について、礒部構成員より一言お願いいたします。
- 礒部構成員 7月18日土曜日に「ルクプチ夏祭り」を開催しました。大体来場者数は300名ほどだったそうです。美原区内で活動する出展者さんが集まって、参加して下さったのはこども連れの親子が多かったです。また8月22日にも夏祭りを開催しますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(拍手)

- 松田企画総務課 ありがとうございます。
- 続きまして、7月25日に開催されました「農芸高校アグリフェス in 美原文化会館」について、本来であれば大阪府立農芸高等学校校長の浦構成員から一言いただく予定でしたが、本日はご欠席のため、株式会社IKIPURO代表、松本構成員より一言いただければと思います。よろしくお願いいたします。
- 松本構成員 それでは、私のほうからご報告させていただきます。

「農芸高校アグリフェス in 美原文化会館」は、先週の土曜日に開催いたしました。第2回目になりますが、第1回目は、今年の1月に実施させていただきまして、この取組に関しては美原文化会館のほうから農芸高校さんといろんな連携事業をしたいというご相談がありまして、農芸高校さんと一緒に企画を進めているものになっています。7月25日は小川区長はじめ、豊岡構成員もご参加いただきまして、今回は生

徒主体で比較的取組を進めていただいており、本当に熱心に生徒たちが関わっていただいていた様子を見受けられました。今回、ふれあい動物ということで、風の広場 1 階のところで小動物の触れ合い等も実施をいたしました。ただ、少し暑さやかほかのイベントも重なっていたため、1 月よりは少し集客というか参加人数が少なかったところですが、多くの方にも一応ご参加いただけたかと思います。

1 2 月 2 4 日には、農芸高校さんと文化会館さんとの共同でイベントを実施する予定でありますので、詳細が決まりましたらご案内させていただければと思います。2 4 日は平日になりますが、ご参加いただきますよう、よろしくお願いいたします。今回はアグリフェスということで、ハイテク農芸科がメインの取組になり、一応 1 2 月 2 4 日は学校全体の取組として様々な学科が連携して実施をする予定をしております。

ご報告は以上です。

(拍手)

○松田企画総務課 ありがとうございます。これからも構成員の皆様がご参加いただけるようなイベントなどがありましたら、事務局へお知らせください。

ここからは、堺市美原区政策会議開催要項 6 (2) の規定に基づき、堀内座長に進行をお願いしたいと思います。

では、堀内座長、議事進行をお願いいたします。

6 議事

○堀内座長 堀内です。よろしくお願いいたします。以下、着席してお話しさせていただきます。

では次第に沿って進行させていただきます。皆様には円滑な議事の進行にご協力をお願いいたします。

それでは案件 1「子育てしやすい環境の充実について」、事務局から説明をお願いします。

○北口企画総務課長 それでは、ご説明いたします。美原区企画総務課の北口です。よろしくお願いいたします。

美原区ビジョン 2 0 3 0 では、基本方針 3「やってみたいが実現できる」に、新たに子育て分野の観点を取り入れました。

また、堺市では「堺市子ども計画」を策定しており、堺市の現状と課題を踏まえ、「こどもまんなか社会」の実現をめざす方針が示されています。

この後のグループワークでは、子育てしやすい環境の充実につながる個人や所属する団体、地域で連携できる取組などについて、意見交換をしていただきます。

ここでまず、本日話題提供といたしまして、美原区の子育て施策について、美原区役所子育て支援課課長の岡久よりご説明させていただきます。よろしくお願いいたします。

○岡久子育て支援課長 こんにちは。美原区子育て支援課の岡久と申します。

○神山子育て支援課長補佐 神山です。よろしくお願いします。

○岡久子育て支援課長 着座にて失礼させていただきます。

それでは始めさせていただきます。

令和 8 年度 第 1 回堺市美原区政策会議、「子育てしやすい環境の充実に向けて」をテーマに進めさせ

ていただきます。まず初めに「堺市子ども計画」について少し触れさせていただきます。

こどもの施策を社会全体で総合的かつ強力に推進していくための包括的な基本法である「子ども基本法」が子ども家庭庁の発足とともに、令和5年4月に施行されました。

「堺市子ども計画」は、この、子ども基本法の考え方を踏まえ、こどもまんなか社会を実現するため、全てのこども、若者が将来に希望を持ち、安心して自分らしく成長できる堺の実現を基本理念として策定されました。計画期間は2025年度～2029年度までの5年間となっています。

計画策定の趣旨は、すべてのこども、若者が個人として、その人権を尊重され、自らの意見を表明できるようになることで、ありのままの自分を受け入れ自己肯定感を持つことができ、自分らしく成長しながら社会に参画できる。また、地域社会全体でこどもの健やかな育ちを支えることで、こどもが夢や希望を持って、のびのびとチャレンジし、未来を切り拓く力を育むことができる。差別や虐待などの困難な状況や、孤立、貧困に陥ることなく、安心して成長できる社会を実現するといった内容になっています。

計画ビジョンと柱はこちらの5本です。ライフステージのすべてにおいて妊娠、出産期から乳幼児期、学童期・思春期、青年期に至る切れ目のないきめ細かなこども子育て支援施策を総合的に推進するものです。計画の実現に向けて、こども、若者の健やかな成長をみんなで後押しをすることが必要です。

この図では左側の上から保護者・養育者は、保護者やこどもを養育している方。直接接する人や過ごす空間としては、例えば、こども同士、親族、先生、保育者、教育、保育施設などがあります。地域の空間としては、近所の人や行政があります。そして、施策や文化として、社会全体の環境をつくる人、政策に関わる人々があります。

今年度、新たに策定した「美原区ビジョン2030」には、基本方針3に「やってみたいが実現できる」の中に「子育てしやすい環境の充実」という項目を新たに追加しました。

本日のテーマ「子育てしやすい環境の充実」について、こども、若者の健やかな成長をみんなで後押しするために、地域全体で取り組めることを皆さんで話し合っていたいただきたいと思います。

続きまして、美原区の現状と最近の傾向について、ご説明いたします。

美原区の出生数は年々、減少傾向です。一方で女性の社会参加や保育の無償化などにより、保育施設への申し込み数は年々、増加傾向にあります。

保育施設を新たに利用する児童の年齢が低年齢化し、その結果、少子化と早期の保育利用に伴い、子育てサークルの数が年々、減少しています。既存の子育てサークルへの加入者数や担い手が少なくなり、継続が困難な状況にあります。

区役所の子育て活動ひろばなどで活動する子育てサークルの数は、5年前に比べ148組から84組の6割程度に減少しています。地域の子育てサークルについても単独での活動が難しくなり、校区を越え合併し、現在、美原区内3サークルが活動中です。美原区独自のこども館や校区福祉委員会などの地域の方々のご協力があり、夏は水遊び、秋はハロウィン、冬はクリスマス会などの企画を取り入れ、楽しく活動されています。

私たち行政も自主サークルに参加されている保護者の声を聞き、活動の継続に向け、後方支援に取り組

んでいるところです。最近の傾向といたしまして、行政手続きの簡素化やオンライン化が進み、子育て中の保護者と区役所が対面でつながる機会が減少しています。SNS等の普及で豊富な情報を保護者自らの力でキャッチすることができる一方で、保護者の得意・不得意による情報格差やSNS等で知り得た情報により、自らが不安に陥ってしまったというような相談も寄せられています。また、同じ趣味をもつ保護者どうしのネットワークは構築されますが、お住いの地域とのつながりは希薄化している傾向があります。

こうした中で一番の本日話し合っていたきたい案件ですが、誰一人取り残されない、孤立化の予防の仕組みが重要と思っています。

さて、子育て支援課の業務としては、こどもに関する手当や助成として、児童手当や助産施設への入所、養育医療等の助成事務を行っております。

子育て支援事業としては、保育士や保健師、子育て支援コーディネーター、家庭児童相談員などによる子育ての悩みなどの相談に応じながら、出産後すぐの困りごとに対応できる「産後ケア事業」や1歳までのこどもを育てる方に対しての相談や家事を手伝ってくれる「育児支援ヘルパー派遣事業」や子育てが始まった時期に相談できる「アドバイザー派遣事業」などを実施しています。また、保護者の就労等で、お子さんの預け先としての認定こども園や幼稚園への利用調整事務に加え、子育てに疲れた時や保護者の急病や冠婚葬祭などの際に活用できる一時保育事業やショートステイなど、安心して子育てをサポートするためのニーズに対応した事業を行っています。

また、先に触れました「美原区ビジョン2030」基本方針3「やってみたいが実現できる」の計画達成に向け、子育て支援課では、親子同士がつどい、つながり、子育てに必要な情報を習得でき、互いに交流することでリフレッシュができるような様々な事業を行っています。必要とする方へ必要な情報を届けるような工夫をし、地域全体で子育てを支援し、保護者が安心して子育てができる環境づくりをめざしています。

具体的な取り組みとして、美原区区域まちづくり事業、「美原区子育てキラキラプロジェクト事業」を実施しています。5つの事業を紹介します。

事業の1つ目、「子育て支援ピアサポート事業」です。区役所別館1階にある子育て活動ひろばを拠点に0歳児の赤ちゃんとその保護者を対象にした「赤ちゃんあつまれ」を実施しています。子育て経験者が講師となり、今の子育て世帯へ抱き方講座やベビーマッサージなどを伝える子育ての好循環を生み出す事業を展開しております。また、事業を通じて、子育て親子の交流の場を創出し、お互いの子育ての知識を交換するなど孤立化予防をめざしています。

同じく、「ピアサポート事業」では35歳以上の保護者とそのこどもを対象にした「大人ママあつまれ」を実施しています。この他にも1歳児のこどもと保護者を対象にした「1歳ママパパあつまれ」や「ママパパのおしゃべり会1歳～honey」など展開しており、延べ年間300組以上の親子が事業に参加されています。

事業の2つ目「親子で楽しむ趣味club事業」です。普段、講座などに興味がない保護者にも子育て支援課に足を運んでいただくよう、実際に保護者の趣味、関心ごとなどのニーズをアンケートで調査し、新たな視点で事業を展開しています。趣味clubに参加された子育て中の保護者どうしが、自主サークル、ししゅうクラブ活動を立ち上げるなどめざます効果が現れています。

事業の3つ目「わくわくMAP活動事業」です。乳児家庭全戸訪問を中心に「子育て応援MAP」を配布。区内の社会資源や子育て支援情報をいち早くお伝えし、早い段階から子育て支援課の専門相談や事業に興味を持っていただくよう情報発信をしています。各テーブルにMAPをご用意しておりますので、ご自由にお持ち帰りいただき、ご覧いただければ幸いです。

事業の4つ目「専門職による子育て相談事業」です。個別の事情を抱えなかなか区役所に来られない方など、電話や窓口以外にも相談の間口を広げるためのオンライン相談を実施しています。また専門性の高いアドバイザーを招き、学校に行きづらいこどもを抱える保護者向けの居場所支援事業を東区と合同で展開しています。対象となるご家庭に 事業内容を漏れなく、お伝えできるよう学校と連携しながら情報発信に努めています。

事業の5つ目、「産学官連携事業」です。先ほどご説明しました「子育て支援ピアサポート事業」を今年度から大型商業施設らぽーと堺の3階からスタジオをお借りして、事業を実施しました。従来の区役所別館、活動ひろばとは、違った場所で事業を展開し、新たな子育て世帯とつながる機会を模索しています。今年度からの実施ですが、商業施設内で開催することでママとパパ一緒の参加や偶然に買い物に来られた保護者が参加されるなど一定の効果が出ています。また、昨年度、太成学院大学とのコラボでは、子育てサークル向けに大学の専門性を活かした、おでかけイベントを大学の敷地内で実施し、今年度も大学の先生や生徒の皆さんと実施に向け、打合せをしているところです。また、大学生や高校生と直接つながる、触れ合う機会を通じて何らかの課題を抱えるこどもに対して将来への希望や見通しを持っていただけるきっかけになるような事業を展開する予定です。

この他にも、子育て支援課が運営を委託している区役所別館「子育てひろば」、「みはらっこわくわくルーム」において、年間を通じて毎日来館できる親子の居場所づくりと、様々な相談を受ける体制を整備しています。また、ファミリーサポートセンターや堺市訪問型病児保育センターの出張登録会など、相互的援助活動を後押しする仕組みについても積極的に情報発信をしています。

次に、地域とのつながり市民参加型イベントについてです。

こどもが健やかに育つ環境を地域全体でめざすことを目的に平成25年から民生委員、児童委員、自治連合会、認定こども園子育てアドバイザーなど22団体で構成する「美原区子育て地域ネットワーク会議」を設置しています。

会議では、各支援団体と地域の課題を共有し、具体的な相談や事業を展開することで子育て世帯の当事者が地域全体で子育てを応援してくれている、安心して子育てができる地域であることを実感してもらうことを目標としています。

「美原区子育て支援地域ネットワーク会議」では、各支援団体からの意見を踏まえ支援者間のつながりを強化し、さらには子育て世帯と直接つながる子育て応援イベントの開催を決定しました。お配りしているチラシは昨年度の内容ですが、直接つながる子育て応援イベントとして、令和6年度から「みはら子育て応援フェスinらぽーと堺」を開催しています。

昨年度は堺市消防音楽隊の吹奏楽コンサートがオープニングを飾り、スクリーンにも映っているみはら大地

幼稚園ほか、こども園計4園の歌とダンスの発表など。太成学院大学の学生さんによるみんなのお楽しみ会・大学生と遊ぼうと題して、会場みんなで堺っ子体操で盛り上がりました。

ランチタイムには、ららぽーと堺内のテナントとコラボし島村楽器によるスイートタイムコンサートでまったり。その時間を利用して大型スクリーンでネットワーク会議の22団体やこども食堂などの紹介パネルやPR映像を放映しました。

午後からは、美原区民生委員児童委員協議会・美原区主任児童委員会主催の「美原区こども家庭フォーラム」で、ピアノのリズムに合わせて歌のお姉さんと一緒に体を動かしました。

会場のららぽーと堺1階スタジアムコートのフロアでは、区役所子育てひろばを広く新しく知ってもらおうと区役所別館から飛び出し、「みはらっこわくわくルーム出張ひろば」を実施し美原図書館と企画総務課がコラボした「出張まちなか文庫」で絵本を展示しました。節分をテーマにした各ブースでは太成学院大学があそび・おえかき、子育てアドバイザーとSAKAI子育てトライアングルがコラボし鬼のお面作り、みはらヘルスメイトは手作りの釣り遊び、美原消防署はミニ消防車、こども防火服の展示やガチャガチャ、美原区こども食堂ネットワークはフードドライブを実施しました。イベントは当初300人を想定していましたが、当日の支援者を含め500人を超える参加があり、イベントは大盛況となりました。

続いて、子育て応援フェスに参加された方々のアンケート結果です。

参加された市民の方からは、「交流が持てるイベントをありがとう」や「他のママと一緒に参加できてよかった」、「こんなイベントがあれば、ほっこりする」といったお声をいただきました。また支援者からは、「多くの団体が協力して一つのイベントを作っているなと実感した」や、「つながりを感じた」、「楽しそうな保護者の顔を見た」などのご意見をいただきました。

そういった参加者の声や支援者の意見をネットワーク会議で振り返った結果、今年度もネットワーク会議が主催する子育て応援イベントの開催を決定しました。保護者どうしの繋がりだけでなく、当日に参加された支援者や団体どうしのつながりも構築される良いイベントになりました。

さて、これまで子育て支援課の取組や市民参加型イベントの様子などをお伝えしましたが私たち行政ができることには、限りがあります。皆様 おひとりおひとりができること、所属している場所でできること、地域でできること、つながったらできることなど本日ディスカッションしていただければと思います。皆様の自由な発想でご意見をお聞かせください。

○神山子育て支援課長補佐

今、資料の説明にありましたように、ポイントとしましては「孤立予防」です。

出生数が減少、サークル数が減少、孤立化というキーワードが出ました。後ほど資料追加でお配りしたいと思いますが、妊娠期から保健センターと連携し、とりわけ保育所、幼稚園に所属がない孤立しやすい就園前、そういったお子様にターゲットをあて、色んな事業を展開しているところです。

最近、電子化の流れがあり、保育所では90%ぐらいは電子申請でなかなか顔が見えない。児童手当に関しても電子申請ができる。行政のオンライン化はすごく利便性がある一方、アナログ的に顔を見て対面

する機会は減っています。潜在的につながりがない、自分の力で情報を得る力の差も出やすい環境にもありますから、そういったところにアウトリーチできる事業展開を子育て支援課はさせてもらっています。

既存事業にとらわれず、外へ出ていこうじゃないかと今年度、区役所別館でやっていました事業をららぽーとでやってみよう。そこで新しいお父さんが来るようになったね、既存の大学、高校にお出かけをして動物触れ合いなど、そういう企画をして、新しいお母さん、子育てのお母さんが参加していただく。そのような形で役所に来られないのであれば、我々行政が出かけよう、一緒に行こう、地域と一緒に連携してネットワークで孤立化予防につなげたいと思います。

我々行政のアイデアの中で、もう一つ所属団体さんの強みで情報、アイデアをいただきまして、美原の地域で子育ての層の厚さにつながればいいなと思っていますのでよろしくお願いいたします。

○北口企画総務課長 ありがとうございました。

それでは、早速グループワークに移りたいと思います。

グループワークでは、今の説明やそれぞれ取り組んでいただいた事前ワークも活用しながら議論を進めていただければと思います。

グループワークの進め方ですが、各グループのファシリテーターを伯井構成員、松本構成員、堀内座長にお願いさせていただきました。ファシリテーターの皆様は、グループの意見の取りまとめ等、よろしくお願いいたします。なお、発表をファシリテーター以外の方で行っていただいても構いませんので、よろしくお願いいたします。

意見交換は、まとめ作業も入れて40分程度を予定しております。20時20分くらいまでにはまとめていただけたらと思っています。

また、本日の会議ですけれども、最終20時45分から遅くとも21時までに終わりたいなと思っておりますので、ご協力よろしくお願いいたします。

まとめやすくするために、発言いただく際は、お手元の付箋にご記入いただき、模造紙に貼っていただくという形でよろしくお願いいたします。最後にそれを見ながら、皆さんで模造紙の上で整理をしていただければと思います。

また、グループで意見を出し合って、本日発表いただきますが、時間が足りない場合や、追加で思いついたこと、個人として言い足りないことなどございましたら、後日で結構ですので、資料4、事後資料にてご意見を提出いただけると幸いです。

また、本日の資料として事前にお送りしました事前ワークも貴重なご意見として活用させていただきたいと思っていますので、会議終了後、机に置いていただければと思います。

それでは、ファシリテーターの皆様、よろしくお願いいたします。また経過時間10分置きにお知らせいたしますのでよろしくお願いいたします。35分経過後ぐらいに5分の意見整理に入っていただけたらと思いますので、ファシリテーターの皆さん、お手数をかけますが、よろしくお願いいたします。

(グループ討議)

○北口企画総務課長 座長、よろしくお願いいたします。

○堀内座長 ではここからは、各グループに発表していただきます。いろんな意見が出て、話し足りないこともたくさんあるかもしれませんが、まずは取りあえず、各グループ、5分程度で代表を決めて発表していただいて、

一巡して、何か話し足りない場合は、また順にお話しいただくこととします。

それでは、伯井構成員のグループの発表をお願いいたします。

○伯井構成員　それでは発表させていただきます。

まず孤立化の予防のということにある程度絞ってお話をいたしました。そのリスクは一番高いのが0歳から2歳、3歳ぐらいの保育園に行っていない方ということではないかということで、そういうサークルに自分から出向く方や、SNSなどで情報を自分から取りに行く方は比較的风险は低いと思いますが、やはりそうでない方ももちろんいらっしゃるということで、情報を受け取る場所があったほうがいいのではないかという意見でございます。幸いにも、美原区にはらぽーとという大きなスポットがあるので、それを最大限活用すべきという意見がありまして、ほかの病院や、あるいはスーパーなどの意見も出ました。やはり一番メインとしてはらぽーとではないかということで、今でも公的な情報の掲示コーナーはあると聞いていますが、こういう子育て世代が、ここに行けば遊べるし、必要な情報もいっぱい貼っているという、共通認識ができるような場所ができればいいなということで、今はただの広場みたいな場所なので、できれば遊具とかも置いていただき、役所であれば公的な団体にしか置けないかもしれませんが、ここは民間の場所であるため、ほかの民間の団体も含めて幅広く掲示がされており、そのことで選択肢が広がるような、らぽーとへ行けば子育て世代がそこに寄ろうみたいな、共通認識ができる場であつたらいいという意見がありました。

もう一つが、こどもの数やそういうサークルが減っているという話が出ていましたが、数が減っているからこそ、一つ一つ丁寧にできるという部分もあるのではないかと。予算でいえば、同じ予算でも単価を上げられるという部分もあると思います。例えば全戸訪問でも、合う合わないもあるので、人を替えてもう一回行ってもらうや、あるいはそういうサークルの場所に来たら、家に配るのではなく、サークルに来たら何か物、オムツでも何でもいいですけども、もらえるというようなことも、今までよりもより単価を上げるという方法もあるのではないかと思います。ある程度、年配の方の予算を同じ単価であれば予算が上がってしまうため子育て世代に振り向けていただければという気持ちあります。最後は、個人の意見が入ってしまいました。

以上でございます。

(拍手)

○堀内座長　次、松本構成員からお願いいたします。

○松本構成員　では、私からと辻本構成員からもお伝えしたいと思います。

こちらのグループでは事前のワークの1から5で皆さんご意見を書いてきていただいておりますので、1回集約しました。あとは孤立化の予防の内容で、グループワークを実施いたしました。孤立化の予防では、お仕事されている方や、保護者の方であればなかなか平日では行きづらいので、配られているフロー図によると、健診があるということで、この健診のときに基本、お母さん方はお仕事を休まれてその健診に行くからこそ、ここが一気に保護者の方が集まる機会なので、そこに事前か事後で交流する機会や公的な情報を発信する機会を設けると、いろいろな交流もそうですし、取りこぼしがなく、サポートができるのではないかという意見がありました。

次、1から5の事前ワークで出た情報をお伝えできればと思いますが、1の「安心して子どもを産み育てる

ための支援」を、辻本構成員から先にまとめてお話しいただければと思います。

- 辻本構成員 1の「安心して子どもを産み育てるための支援」では、産後から参加できるイベントを美原区にたくさん主催していただき、私自身も参加させてもらいました。そこには助産師さんや保健師さん、子育て支援課のコーディネーターの方がいらっしゃって、皆さん最後に相談したいことがあれば声かけてくださいと言ってくれるのですが、実際にしんどかったときにそれを自分の口から言うことも、言う言葉を自分の耳に聞かせることも、まだ分かっていないであろう赤ちゃんに聞かせることにも抵抗があって、口で相談することはできずに帰るという実体験があったので、せっかく開催されているイベントの中のこの相談方法をカードを渡すでもいいですし、書面に書く、アンケートに書いて、後日、個別で電話連絡や訪問連絡といった相談のしやすさをイベントのときにもう少し変えていただければいいという意見が出ました。

- 松本構成員 ありがとうございます。

次に、2の「子どもが健やかに育ち自分らしく成長するための支援」では、夏休みの居場所づくりや、そういうご意見もありましたが、その中で公立小学校の教室や施設が結構汚いという話がありました。しかし、それは学校の先生方で掃除してくださいや児童で掃除してくださいというのはなかなか負担もかかることなので、この地域のつながりも含めて、地域の方々と一緒に年に何回かでも掃除を一緒にしましょう。ここからは、個人的な意見ですが、掃除することによって、子どもまんなかというところも含めてですが、いろんな方々が子どもの環境をよくしようという機運醸成のような場ができればいいのではないかと、あとは給食の部分も話出ました。無償化は非常にありがたいことですが、ただ給食の質を下げないでほしいという意見があり、給食で栄養摂取、栄養バランスを取っていくこともあると思うので、その質を下げたくないという意見も出ました。

3の「若者の自立と社会参画に向けた支援」については、キャリア教育という話が出ており、地元の企業やフリーランス、企業、様々な働き方をされている方々に、生徒、小学生、中学生が学べるような環境づくりが大切ではないかという話が出ておりました。

4の「様々な支援を必要とする子どもと家庭への支援」については、子育て応援マップを子育てされている方々だけではなく、全戸配布をすることによって、地域のほかの子育てされてない方々も、参画するような情報、参画する機会ができるのではないかとという意見がありました。

5に関しては辻本構成員にお願いできればと思います。

- 辻本構成員 5の「子育てしやすい環境整備」の中で上がった意見としては、美原区内に病児保育の施設が欲しいという意見及び今ある訪問型の病児保育もこれに載っていますが、家に訪問してくれるだけでなく、病院への送迎、あるいは病院から少し遠い施設型の病児保育への送迎もしてくれるので、そこをもう少しアピールを強めていただくと美原区内で利用する人が増えるのではないかとという意見が出ました。

もう一つは地域の方々がされている、ほぼボランティアに近い習い事などがあるのですが、誰かから口伝えて聞かない限りそこに触れられないので、何かそういった習い事、ボランティア活動、ボーイスカウトなどの活動の一覧化及びその配布をしていただけるとありがたいという意見が出ました。

- 松本構成員 ありがとうございます。こちらからは以上です。

- 堀内座長 ありがとうございます。

(拍手)

○堀内座長 最後に、私たちのグループで話した内容をお話します。

孤立している親御さん、子育て世帯の親御さんをどうすれば孤立から解消できるかというときに、一番大事なのは自治会、御近所さん、あるいはこどもが学校に通うときの通学路にいる御近所さんの見守りなど、そういうところに自発的に入る人はいいいですが、恥ずかしかったり人見知りだったり、そもそも自分に助けが必要だということを分かっていないような、そういう人たちがいっぱいいる。そういう人たちはやはり孤立してしまうわけで、どうすればそういった人たちを、自治会などに抱き込めるだろうかという話をしました。

1 つは、そういった子育て世代の親御さんにとってハードルが低く参加しやすいイベントだったらいいのではないかな。例えば、こども会の自治会の交流などで、こどもが職場体験をすることや、高齢者にでもケーキやコーヒを持っていくなど。お金の管理をこどもたちがする。そういうところでイベントをすることでこどもだけではなく親も一緒に参加するのではないかな、例えば小学生ぐらいのこどもたちに、主体でおばけ屋敷をやってもらったり、くじ引をやってもらったりなど。ターゲットはもっと小さい子。そのようにして、まず子育て世代の親御さんがこどもたちと一緒に参加しやすいようなイベントがあればいいのではないかなという意見がありました。

ただ、そういうイベントをやるにしても、イベント情報が、孤立のリスクがある親御さんに届くかどうかなんです。そういった人たちは SNS などをついつい見てしまい、地域の情報が手に入らない。では、どうすればいいかという話をしていましたが、1 つが、子育て世代の親御さんが絶対行く場所があり、病院、郵便局、農協、銀行、ららぽーと、そういうところ。行くのは当日になる。でも、病院では待合室でしばらく座っているうちに、何かあるという感じで目に見える。割と狭い空間で、かつゆっくりできる、そういう場所の一角辺りに、地元のイベントなどのチラシを貼らせていただいたら、それが訴求力になるのではないかなという意見がでました。

また、今、学校ではいろんなイベントのチラシが全部紙ではなく、iPad 等で直接親御さんに送達される。親御さんが興味なければ捨てられてしまう。それを可能であれば部分的でも紙印刷に戻してもらおう。そうするとこどもが見る。こどもが親に出す。こどもが関心を持って、こんなことがあるからこれ行きたいって言えば、親御さんも一緒に行くことも考えられる。そういうアナログですが、ポスターやチラシというメディアを、場所を選んで使っていくと、意外にチラシが親御さんやこどもたちに届くんのではないかなという意見がありました。

あと、そういうイベントをするときに、誰かがやらなければいけない。役員が大変だったり、忙しいだったり、以前に自治会役員をしていた人たちも、担い手が減っているという現状があると思います。では、今後どうすればよいか。ここでこのグループで一番重要なキーワードが、「暇な高齢者」という発言です。時間に余裕のある高齢者の人にもっと積極的に働いてもらう。他にも時間に余裕のある中年も入っています。何歳か分かりませんが、時間に余裕のある人が、若いお父さんお母さんがいたら、積極的に話ししてもらおう。続きは阿部構成員をお願いします。

○阿部構成員 私はスーパーや公園で妊婦さんに会ったら、「赤ちゃん、今何か月？ 楽しみね。」と声をかけます。やんちゃ真っ盛りのお子さん連れのパパ、ママにも「元気ね。」と声をかけます。「もう、やんちゃで、やんちゃで。」という返事に、「やんちゃで親を困らせても元気が一番。すぐに大きくなって、中学に行くようになったら、親は置いてけぼりになるから、今のやんちゃさんの子育てを楽しんでね。」と答えます。軽い世間話

をして、顔見知りになることで、少しでも、子育て世代を応援できるかなと考えています。

- 堀内座長 積極的に子育てで困っていたり、忙しかったり、大変なんじゃないかというお父さん、お母さんに、ぜひもう何げない世間話をしていただくと、非常にいいのではないかと。そういう人たちが、働き世代のちょっと孤立しがちな親御さんと地域をつなぐ一番重要な役割を果たすのではないかと意見がありました。

あと自治会に入るだったり、いきなりは入れないので、若いときからいろんなボランティアなどがあると入りやすいのではないかと意見がありました。

以上になります。ありがとうございました。

(拍手)

- 堀内座長 ここまで3グループに発表いただきましたが、時間があるので、それ以外の方で発表を聞いた上で、他にご意見がありましたら、ぜひお話しいただきたい。どなたでも結構です。

- 磯部構成員 みはらママ会という親子サークルを運営しております磯部と申します。

子育てをしていくためには、緩やかで柔軟な初期接続の強化が必要だなと私は思っていますが、居場所となる民間団体の継続的な活動基盤の確立のために、サポートがあれば大変助かるなと思っています。出にくい人で、きっかけがないと出られない、趣味クラブのような形でも、いろんなイベントをすることで、これなら行ってみようかなって思える人が1人でも増えたら、それはすごくいいことではないかと思っています。私は結構多様なイベントを開催することをしていますが、様々な支援を必要とするこどもの家庭への支援だとしても違いを認め合えるような、インクルーシブな、誰でも参加できるようなイベントが開催されていれば、それを知ること、分かり合うにつながると思うので、そういう機会が増えたらいいなと思っています。

以上です。

(拍手)

- 堀内座長 ほかどうでしょうか。どなたでも結構です。松本委員のグループはどうでしょうか。

- 辻本構成員 今、私は上のこどもがこの4月に小学校1年生になりまして、地域の方々が小学校や登校のときにとても関わってくださっていることを知ったんです。習い事や登校の見守り隊の方、その学校、こどもと関わってくださっている地域の方々へのこどもとの関わり方の知識のアップデートができるような場があると、より安心して親は地域のイベントに参加することなど、ハードルが下がるかと思っています。

以上です。

- 堀内座長 ありがとうございます。

(拍手)

- 堀内座長 では、私のグループから発言をお願いします。

- 西村構成員 こども食堂やかみっこキッチンをやっています西村と申します。

うちのこども食堂は、去年は年間204回開催しました。いろんなお子さんがいる中で、どの子もすごく明るくて元気で、ただ保護者の方が悩んでいるというパターンもとても多くて、自分でその何を悩んでいるのか、悩んでいることも分からないという場合ってすごい、私たちもどう対応していったらいいかなって悩むことも多いんです。そのときにこういうものを私も持っていたいと思ったので、先ほど言った全戸配布っていうのはすごくいいなと

思いました。

あとは、時々近所さんから「あそこの子がしんどそうなのでちょっと見たってくれないか」というお話を聞いて、こちらからお声かけするってことも多いので、子育て世代の人でなくても、皆さんこの地域のこどもたちを見守るって目を温かく持っていていただければうれしいなと思っています。以上です。

○堀内座長　ありがとうございます。

(拍手)

○堀内座長　ほかありませんか。ありがとうございました。それでは、ご意見ないようですので、次の案件になります。

案件2、その他についてですが、本日は特になんということですが、よろしいでしょうか。

○北口企画総務課長　グループワークで言い忘れたことや追加の意見などがありましたら、資料の4の事後提出資料をお配りさせていただいておりますので、恐縮ですが、8月中にご提出をお願いいたします。

あと最後に発言し切れなかった構成員の方も、資料4でご意見いただきますよう、よろしくお願いいたします。

○堀内座長　それでは本日の案件はこれで全て終了しました。事務局に引き継ぎます。

○松田企画総務課　堀内座長、議事進行ありがとうございました。

それでは最後に区長とセンター所長のから一言ご挨拶させていただきます。まず、センター所長からお願いいたします。

○西本美原保健福祉総合センター所長　皆様、今日はありがとうございました。先ほど子育て支援課長からお話しさせていただきましたように、我々もいろいろ工夫して頑張っておりますが、まだまだ足りないことが実際あります。その中で、今日のお話、まとめの意見を聞かせていただきまして、本当に豊かな発想でのご意見をいただきました。できることもあるためまた明日から考えていきたいと思いますし、様々な意見の中には、明日から地域の皆様ができるヒントもあったかと思います。美原区は子育てしやすいと皆様が言っていたように、一緒に、取り組んでいけたらと思います。様々なご意見、本当にありがとうございました。

(拍手)

○松田企画総務課　ありがとうございました。それでは、区長からどうぞ一言ご挨拶をお願いします。

○小川区長　皆様、本日は本当に様々な意見をありがとうございました。本日は区で進めている様々な子育て支援の事業を知っていただく機会になったと思っています。私自身もセンター長とよく一緒に子育て支援事業には参加させていただいておりまして、直接親御さんといろいろな話をさせていただく機会を大切にしながら、気楽に、気軽に参加していいんだと思っていただけるように、たくさんの方に参加していただけるようにと情報発信に努めています。

あと、ご意見の中にありました相談の仕方とか、活動の発信の方法も改めてよりよい方法を相談しながら考えていきたいと思っています。

美原区は地域のつながりが強くて、ご意見の中にもありましたが、ららぽーと堺とかビバモール美原南インターなど、非常に協力的で恵まれた環境にあると思っています。

また子育て中の方へのちょっとした声かけも非常に大事だなと思いました。

未来を担うこどもたちが笑顔で過ごせること、そしてこどもたちが挑戦する、その頑張っている姿が、地域をすごく元気にしてくれると思っています。美原区の強みを生かしながら、さらに子育て世帯の方に選んでいただけるようなまちになるように、皆様と一緒に取り組んでいきたいと思いますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

本日はどうもありがとうございました。

(拍手)

○松田企画総務課　ありがとうございました。

以上をもちまして、令和８年度第１回堺市美原区政策会議を閉会いたします。

なお、事前ワークをお持ちいただいた方は、事務局が回収いたしますので、机の上に置いたままご退出いただけますようお願い申し上げます。本日はありがとうございました。

(午後８時５０分　閉会)